

恵庭ライオンズクラブ（島田圭二会長）は認証60周年事業として5月24日、市内の小中学生を対象に「スポーツ能力測定会」を恵庭市総合体育館と北海道文教大学の2会場で開催。約200人が



恵庭ライオンズクラブ認証60周年記念 「スポーツ能力測定会」開催



この催しは、最新の測定機器を用いて、子どもたちの運動能力を測定する「スポーツ能力発見協会」と、北海道文教大学の協力により実現したものです。

総合体育館では、10メートルダッシュ、反復横跳び、反応ステップ、などの6種目を測定。瞬発力や脚力、体幹の安定性、運動能力を評価し、結果レポートと個別のアドバイスを参加者に手渡されました。

文教大学では、バスケットボール、フットサル、モルック、野球などの体験会が行われ、子どもたちはさまざまな競技に挑戦し、元気に体を動かしていました。

会場には、プロフィギュアスケーターの安藤美姫さんが応援に訪れ、同大学講堂では元東京ヤクルトスワローズ監督の古田

（編集部 大谷）

生活クラブ生活協同組合恵庭支部は5月20日、「オシキリ食品さんとお豆腐を作って食べよう会」を島松公民館で開催し、21人が参加しました。講師には豆腐や納豆、こんにゃくなどを製造・販売する「オシキリ



2種類のにがりで豆腐作りに挑戦 「オシキリ食品さんとお豆腐を作って食べよう会」

食品（江別市）の遠藤一彦常務取締役役をはじめ、今回使用する2種類のにがりを紹介。人工にがりの「硫酸カルシウム」はしっかりと固まるため扱いやすく、天然にがりの「粗製海水塩化マグネシウム」は柔らかく仕上がる一方で、固まりにくく、にがりを入れたすぎると苦くなるという特徴があります。また、豆乳にがりを入れると豆腐ができます。

る仕組みについて「豆乳が固まるのは、にがりや豆乳の中のたんぱく質を凝固させる性質があるからです」と説明しました。

豆腐作りでは、それぞれ豆乳の温度や混ぜ方にがりを入れるタイミングなどが違うため、参加者は真剣なまなざしで温度計を見ながら、豆乳を木べらで丁寧に混ぜていました。



みがある」「人工にがりを使ったほうは、しつかりとした食感で食べ応えがある」などそれぞれ感想を述べていました。

参加者は「初めての豆腐作りでしたが、美味しく美味しく作れて満足です」と話していました。

（編集部 大谷）



敦也さんが「夢を持つことの大切さ」プロ野球選手になるまで」と題して講演を行いました。

参加した中村蓮さん（小学6年）は「バスケットボールやバトミントン、サッカーをやりました。いっぱい体を動かして楽しかった」、妹の凜さん（小学3年）は「ボールを投げたり、いっぱい遊べて楽しい」と笑顔を見せていました。

恵庭市内のスパル建設（齋藤一史取締役会長）敷地内にあるスパル農園で5月28日、いちご狩りが行われました。招待されたのは、恵庭市子ども発達支援センターに通う子どもたち8人とその保護者です。

同農園で育てられている「とちおとめ」は、ジュシーで甘みが強く、酸味が少ないのが特徴です。

参加者たちは真っ赤に実ったみずみずしいいちごを次々に摘み取り、その場で味わいました。中には顔や手、服をいちごの汁で赤くしながら夢中で頬張る子どもたちの姿もあり、いちごを口にすることがなかった子ども

（編集部 大谷）



スパル農園でおいしい体験 子どもたちがいちご狩り

もが、自分で摘みたいいちごを恐る恐る口にした後、夢中になって食べ進めるなど、楽しそうな様子が見られました。

この取り組みは、子どもたちに無料でいちご狩りを楽しんでもらおうと、2011年に「恵庭のこどもを支援する会」の斗澤正樹さんが発案。齋藤会長の協力を得て実施され、コロナ禍の3年間を除き、今回で11回目の開催となりました。

初めていちご狩りを体験した藤枝遼さん（2才）は、いちごを食べるのも初めて。いちごを口に運ぶと「おいしい」とにっこり。母親の沙矢香さんは「子どもが初めてイチゴを食べ、楽しんでる様子を見て、参加して良かったです」と話していました。

いちご狩りの後には、農園の職員から参加者へ苗のプレゼントがあり、子どもたちは笑顔で受け取っていました。

千歳にきて74年の永きにわたりご愛顧いただきありがとうございました。

OBARAイオン千歳店

完全閉店

6/6(金) ~ 7/27(日)

OBARA イオン千歳店

千歳市栄町6丁目 イオン千歳店1F